

平成 29 年度

事業所名 : はなみずき石鳥谷

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372300244		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	はなみずき石鳥谷		
所在地	〒028-3102 岩手県花巻市石鳥谷町上口一丁目3番地1		
自己評価作成日	平成 29 年 6 月 30 日	評価結果市町村受理日	平成30年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0372300244-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=0372300244-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 7月 25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは同一法人が運営する養護老人ホーム、ディサービスセンターに隣接しており、両施設間の利用者との交流を行っております。また、養護老人ホームの看護師から定期的な健康管理、終末期の支援を受けております。さらに非常災害時に備えて母体施設と総合避難訓練を行うとともに、ホーム単独でも避難訓練を行っております。利用者本位での生活が出来るように見守りや声掛けを行い、利用者の生活状況を把握し、家族と職員とで共通認識を持ち援助しております。また、利用者の機能低下を予防するため、毎日体操リハビリを行っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺に田・畑が広がる閑静な地に、特別養護老人ホームやデイサービスを展開する法人が開設した15年目のホームである。法人理念“和と笑顔”を受け“笑顔”“チームワーク”など4点をホームの理念とし、利用者へ寄り添い傾聴し感情を受けとめる支援がなされている。地区民から理解と協力が得られており、保育園・小学校・中学校・高校との交流が図られ地域の高齢者福祉の拠点となっている。法人に配置されている看護師や協力医との連携が密で、一昨年には家族の要望・協力により終末期ケア・看取りを行った。開所以来の認知症ケアの蓄積された経験を地域に発信し、相談活動にも取り組むことが期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : はなみずき石鳥谷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「和と笑顔」のある事業所になるため、利用者の思いに寄り添う関係を大切に業務を行っている。申し送りの時間を利用し、職員間でコミュニケーションをとっている。	法人理念の「和と笑顔」を受けホームとして「想いを尊重・あいさつ・笑顔・チームワーク」の4点を定めた。ホーム内に掲示し、職員会議などで読み合わせを行い共通理解と日々のケアとの一体化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児、小中学生や地域の方々と施設の行事に参加しながら交流を楽しんでいる。	法人広報(年4回発行)を近隣住民や関係団体に配布している。保育園の運動会見学や、小学生は七夕会、中・高生は実習でホームを訪れている。町のお祭り(山車、神輿)見学で市民と交流を図っている。	開所15年経過し認知症ケアの実績が蓄積されている。日々のケアで手一杯の側面もあるが、高齢化が進む今日、事業所として地域との交流を一層深化させ、認知症対応についての情報提供や相談を受けるなどの取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌(宝寿荘通信)などで活動をお知らせしているが、地域への貢献を志向して行うことは殆どなく、来訪者の質問に答える程度である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は、避難訓練に参加して頂きアドバイスを貰ったり、職員間で行き違いがあった時にアドバイスを貰いサービス向上に活かしている。	委員は行政・福祉・自治会・利用者などバランス良く活発である。職員人事について委員から「話し合いを大切に」との助言を得て運営に反映させている。各種行事や避難訓練に参加するなど積極的で、外部評価にも1名の委員(区長)が同席した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緊急時や災害の時には、市から様子伺いの連絡が入ったり、必要な時は連絡を取っている。	認定更新や生保受給等もあり市の担当と連携を密に図っている。市から防災ラジオが貸与され、非常時には情報が入る。市・地域包括支援センターの担当者が運営推進委員としてもホームの実情を理解して頂いており、敬老会などの行事への参加の案内も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で勉強をしている。玄関の施錠は、職員の人数の少ない時に、利用者の安全のために施錠することもある。	法人全体で毎月研修会を行っており「身体拘束防止」を重視している。「・・・ダメ」等の行動抑制に繋がることが懸念に気をつけ、利用者の特性に応じたケアに努めている。帰宅願望の強い方がおり、入浴や食事準備で人手が必要な時のみ玄関施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修に参加し勉強して、防止に努めている。言葉による虐待についても、職員間で共有意識を持って介護にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を受けて勉強している。昨年まで、制度を利用していた方が1名おりました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者やご家族の不安を解消するように十分な説明を行っている。また、書類の内容で疑問に思うことはいつでも聞いてほしいことを付け加えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の希望は直接話す方には傾聴し、そうでない方は話の中から拾い上げるようにしている。家族からは面会の時に要望を伺って対応している。	面会や行事の来所時に家族の意見や要望を聞いている。毎月の請求書と共にホームでの生活状況を家族に届けている。昨年11月の家族交流会では、利用料・重度化と看取り・主治医についての意見が出され、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に言う機会は定期的に設けてはいないが、必要に応じて職員会議の時に話せるようにしている。	法人で毎年全員から「業務改善提案書」をとり、意見・要望の把握をしている。FFストーブの炎を不安がる方がいるとの声を受け、温水パネルヒーターに交換した。居室に大型の温度湿度計を備え、快適な室内環境の維持に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や休日については、本人の希望に添えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は全員が受講するようにしているが、なかなか難しいです。資料を貰い読み合わせる等している。外部の研修には、昨年は職員の勤務の余裕がなく受講が難しかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	花巻北上のブロック内で交換研修を行っている。他の施設を知ることにより良い支援につながると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人や家族から困っていることを聞いたり様子を観察し対応している。職員間で情報を共有し、笑顔で話しかけたりすることで安心できる雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族からもお話を伺い、面会の際にもご家族からお話を伺って職員間で共有し信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に利用者、家族から要望を聞きケアプランを立案している。入所前のサービス事業者や病院からも情報提供を受けて参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは行ってもらい、お礼の言葉を言うようにしている。出来る事、出来ないことを把握し声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始時には、月に一度以上の面会をお願いしている。また、毎月本人の話や活動を記入した生活状況を渡し、様子をお知らせしている。本人から家族や地域の話が出た時は傾聴している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方(友人・家族)を忘れる利用者が多くなっています。面会があった時は写真を撮るなどして会話に役立てるようにしている。また、友人が面会に来られた時は職員が間に入って、会話を取り持ったりしている。	加齢と共に馴染みの把握が難しくなっているが、生活歴や家族からの情報を得て関係の継続を図っている。家族の協力を得て、通院時に自宅へ寄ったり、美容院を利用したり、外食をされる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝食時に食堂に来られた時は、お互いに挨拶をし合っている。見守りを行っている。利用者同士良好な関係を保てるように見守りや声掛けを行っている。一人が好き方もいるので見守りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている時は、病院に様子伺いに訪問したり、ご家族に様子を伺ったりして、退院後の相談に乗ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを傾聴し、把握して成し遂げさせてあげたいと思っている。意向の把握が出来ない時は様子観察をして思いを推測している。	入居前の情報や生活歴を大切に、入居後の様子も加味して思いや意向の把握に努めている。いくつかの選択肢を用い、利用者自身が選ぶことで、意向や好みを把握し、申し送り職員間での共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からお話を聞き、職員会議や申し送りの時間を利用し、生活歴や馴染みの暮らし方等を共有している。また、フェイスシートを作成し、いつでも見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌を読んだり、申し送り等で現状把握を行い、職員間で強弱有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	特別なことが無い限り、3か月に1度、計画を見直している。担当職員もモニタリングを行い、それをもとに職員会議を開いてケアプランを作成している。	担当職員とケアマネジャーでモニタリングを行い、結果を全職員に伝えている。現状に沿ったケアプランを作成し、全職員で共有し本人・家族に示し話し合っている。プランに基づく「介護実行表」を用いて日々のケア実態を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや業務日誌、個別のケース記録に記入した情報をいつでも見られるようにして、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体施設の特浴を利用している方が3名おります。必要に応じ、母体施設の職員や家族と連携を取りながら、その都度取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は主に家族、運営推進委員、母体施設の職員である。母体施設の行事に参加し顔なじみを作るようにしている。地域の散歩でも住民と顔なじみを作るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者にそれぞれかかりつけ医があるので、家族と協力しながら受診できるように支援している。	かかりつけ医への同行は家族が行いホームでの様子をメモに記入し医師に伝えている。入所に伴い協力病院に変えた方もいる。協力医が訪問し診察する場合はホーム職員が立ち会い、結果を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	宝寿荘の看護師と情報を共有し、利用者の受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は日常の様子を病院に伝えたり、看護師を通じて様態を聞いたりして、家族と連携を取りながら、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や看護師の協力を頂きながら支援している。家族が悔いを残さないように付き添いをして頂いたりして、つながりを大切にしている。	「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」を入所時に説明し同意を得ている。看護師や協力医との連携が図られており、一昨年家族の見守りの中での看取りを行った。多くの家族がホームでの終末期・看取りを望んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回は急変時の対応について勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は地域住民の協力を頂いて避難訓練を実施している。独自でも、月1回の訓練を計画しているが難しく、2か月に1度程度の実施となっている。	北上川水害危険地域であり災害に対する意識は高い。法人の訓練は、約40名の地域住民の参加を得て実施している。ホーム単独の訓練を毎月実施し、職員の緊急連絡訓練も行って、災害時対応に万全を期している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お話を傾聴することで性格を理解し、誇りやプライバシーを傷つけないように気を付けている。特に入浴や排泄介助の時に注意している。	人生の先輩として敬い寄り添い傾聴に努めている。理念「和と笑顔」を大切にしつつも馴れ合いとならぬ様留意している。入浴やトイレ利用時には特にプライバシーに配慮し、耳元でさりげない声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞きながら日常生活を進めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の時間設定はしているが、利用者のペースで生活出来るように、声掛けや支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望するような身だしなみ出来るようにお手伝いをしている。本人が希望する時は出張の床屋を利用できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	商事の時は、ご飯は自分で盛って頂いている。食事の下膳やテーブル拭きなど、出来る範囲で手伝って頂いている。	利用者ケアを優先し、試行を経て今年から食事を業者委託しミキサー食などの加工は法人調理室で行う。利用者は片付け、テーブル拭きを主体的に行っている。ドライブ時の外食や行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた食事形態で食事を提供している。食事中は良く観察し、十分に栄養がとれるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいを支援している。夕食後は、歯磨きや義歯消毒を声掛けと支援を行っている。歯磨きの磨きなおしをしなければならぬ方もいるので、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でトイレに行く方は見守りを行い、介助が必要な方は介護実行表を活用し、定期的に声掛けを行っている。	排泄チェック表や介護実行表により実態に応じ「見守り・声掛け・誘導」を行っている。6人は自分の意志でトイレに行き、内2人は自立している。居室でポータブルトイレを利用する方が3人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護実行表を活用し、水分摂取や野菜類の摂取の声掛けを行っている。また、処方されている下剤を使用している方もいる。また、希望する飲み物を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に沿った入浴を支援している。重度化に伴い宝寿荘の特浴を利用する方が3名おります。特浴は宝寿荘の時間で行っている。	循環型風呂で24時間対応可。通常午後に入浴しているが体調等により午前にも利用する方もいる。気の合う方と一緒に入る方、毎日入りたい方、シャワーを使う方など弾力的に対応している。身体的機能を考慮し、法人内にある特浴を3名が利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせた支援を行っている。眠剤を服用していない方が多いが、不安を訴える時は、一緒にお部屋に居て過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員について、服薬支援が必要である。服用薬の情報を職員全員で共有している。看護ファイルに服薬説明書をファイルしてあり、職員はいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として、洗濯干し、洗濯たたみ、居室のモップ掛けなどを行って頂いている。その際は、お礼を言うようにしている。また、希望する余暇支援を行い、楽しみや気分転換に役立っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を兼ねて近くの公園に行ったりしている。遠方へのドライブは年2回程度行っている。また、家族の協力を貰い、ドライブや外食に行く方もいる。	週2~3回公園や保育園への散歩、畑で野菜の収穫を行い歩行力の維持・向上に努めている。ドライブで春の新緑・花見、秋の紅葉を楽しむ外食をしている。家族の協力を得て、利用者の個々のニーズ(自宅へ寄る、外食をする)を満たしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、家族が行っている。家族の依頼を受けて小口の現金を職員が管理している。ドライブに出かけた時は、自分の食べたいものを購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が安心できるように電話で話をしてもらっている。写真の年賀状を送って下さる家族もおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清掃や整理整頓を心掛けている。家族との写真や作品を展示して、皆さんと楽しんでいる。これからは、室温、湿度の調節と管理を実施する。	「自分の家で生活する気持ち」になって欲しいとの願いで、ホールや廊下の壁面に家族や行事写真、ちぎり絵、習字が飾られ、季節飾り(七夕)があり潤いを感じられる。温度、湿度はエアコンや加湿器で調節している。ホール中央の天井に天窗があり障子(和紙)がはめられ趣を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に食堂や玄関ホール、玄関前のベンチで過ごしている。気の合う人同士、お互いの部屋を行き来したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始の際は、使い慣れた物を持って来て下さるようお願いし、大きく名前を書いて自分の物と確認できるようにしている。出入り口には名前を書いた紙を貼っている。時計、温度計を設置し、目で確認できるようにしている。	ベッド・洗面台・クローゼット・温度湿度計が備えられている。利用者と家族が工夫しぬいぐるみ・人形・写真・寄せ書き・花・ラジオ・テレビなどを置き、快適に整えている。転倒・転落防止のため床に布団を敷いて対応している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであるが、必要に応じ手すり利用の声掛けをしている。足元に物を置かないようにして安全を心掛けている。		